

心肺蘇生法など学ぶ

宝陵高で1年生参加し講習会

豊川市の宝陵高校で25日、豊橋ハートセンターの医療関係者による心肺蘇生(そせい)講習会が

行われた。1年生118人が参加、心臓マッサージと人工呼吸での心肺蘇生法とAED(自動対外

講習で心肺蘇生法を学ぶ生徒ら



式除細動器)の使い方を学んだ。

初めに豊橋ハートセンターの杉浦武治氏が正確な心臓マッサージの方法を説明。生徒は2人1組で人形を使い、1分間100回を目安に練習した。

杉浦氏は「AEDを使う以前に1番大事なことは、心臓マッサージで患者の脳死を防ぐこと」と話し、迅速な心肺蘇生の重要性を生徒らに説明した。

続いて生徒はAEDの使い方学習。使用上の注意点を聞き、音声ガイドに従いながら実際に使用した。AEDは、けいれんを起こした心臓に電気ショックを与え、患者の生存率を高める器具。公共の場などに設置され、利用方法の周知が課題となっている。

参加した生徒は「とっさの時に今日学んだことを生かしたい」と話し、救命に対する意識を高めた。